



アドボケート (advocate) とは、障害者の権利擁護のための支援・擁護・代弁する人の意味。この企画では、当事者が自ら、自分の言葉で、今の生活についての思いを発信します。

書籍「なんでもやってみようとして生きてきた ダウン症がある僕が伝えたいこと」ができるまで

長谷川（知子）先生が講演の依頼をとって
くれて、僕はどんな話をしたいか原稿用紙に
何枚書きました。「どんな人達が来るなど
んな話をしようかな。」と思ってイメージを
しながら書いていました。

講演の会場で手伝いして終わったあと遠見
書房の駒形さんに初めて会いました。

駒形さんが僕に「南さん、もし良かったら
本にしてみませんか？」と僕に聞いてくれま
した。

念入りに打ち合わせをして、どんな文書に
するかを相談をしました。

長谷川先生と駒形さんは、少し相談してく
れて、僕にこう言ってくれました。

「南さんが生まれてから、今までどのよう
な事があったのか、何をしてもらったり親切
にしてくれた事などを書いてみたらどお？」
と言ってアドバイスをしてくれました。

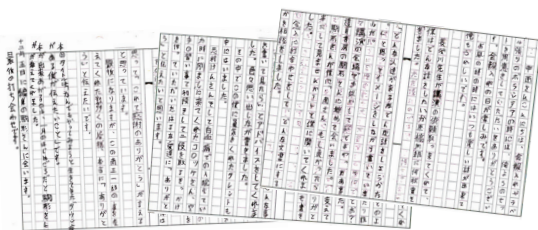
僕もいろいろ考えてみて、僕の事を影で支
えていただいた、数多くの人たちに感謝のあ
りがとうと言う気持ちを込めて、何度も、何
度も書き直しをしていて丸二年がたちまし
た。

母は僕の文を見て「ここの行ではこんな事
を書いてみたら」とアドバイスをしてくれま
した。色々思い出しながら書きました。(中略)

その当時の近所の皆さんやクラスメートの
皆さん達に僕の事を理解してくれて一人で何
にも出来なくて困っていた時には支えてくれ
て親切にしてもらい手助けしてくれました。

※これまで会報に掲載してきたこのコーナーの記事を JDS のホームページですべてご覧いただけます。

トップページ上段「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」⇒「主張するセルフ・アドボケートたち」



だから僕は、何でも、今自分が出来る事を
やってみようと思った。

ダウン症で知的障害を持っている僕が感謝
のありがとうと言う気持ちを伝えたいこの思
いをまとめてみました。

その内容を、本として出せたらいいなと僕
は思って「これで感謝のありがとうが言える」
と思っています。

最後になりますが、この南正一郎の事を支
えてくれた数多くの皆様、本当に「ありがと
う」と伝えたいです。

(南正一郎さんの手書きのメッセージより)

なんでもやってみようとして生きてきた
ダウン症がある僕が伝えたいこと
遠見書房 定価 1,500 円 (+ 税)

南正一郎さんの日記を
ベースに書き下ろし部
分をプラスした本書。
白血病などの疾患を乗
り越え、空手、英会話
などさまざまなチャレ
ンジをしてきたご本人
による手記です。

